

大腸内視鏡で治療を受けられた皆様へ

超微形態学的アプローチによる大腸鋸歯状病変の粘液産生状態の評価研究について

2020年9月7日

誠馨会千葉メディカルセンター 病理診断科

この度、誠馨会千葉メディカルセンター 病理診断科では、千葉大学院医学研究院と連携し、大腸の内視鏡治療を受けられた患者さんの診療情報・診断後の残りの検体を用いた研究を行います。それに際し、実施内容を公開させていただきます。

この研究による患者さんへの新たな負担は一切ありません。個人情報の保護は徹底して行います。

本研究への情報・検体の提供を望まれない場合には、下記連絡先にご連絡ください。

1) 研究目的 及び 意義

大腸内視鏡で見つかる病変には、鋸歯状病変と呼ばれるものがあります。そのうち Sessile serrated lesion (SSL) 【Sessile serrated adenoma/polyp (SSA/P) とも呼ばれます】は癌になる可能性があり、Microvesicular Hyperplastic polyp (MVHP) は癌になりません。しかし、ともに光学顕微鏡で似て見えるため、病理診断上、区別が難しいことがあります。

この研究は、通常的手段より細かい構造を観察できる実験手法を使って、SSL と MVHP を詳しく観察することで、2つの病変の違いを明らかにし、新しい大腸癌発見のスクリーニング法の開発を目的としています。また、本研究の成果が将来的には腫瘍化メカニズムの解明・新たな分子標治療法の開発へとつながる可能性があります。

2) 研究の方法

① 研究の対象

千葉メディカルセンターで行われた大腸内視鏡生検・内視鏡的切除検体のうち、Sessile serrated lesion (SSL) もしくは Sessile serrated adenoma/polyp (SSA/P) と診断された症例と Hyperplastic polyp (HP) と診断された症例の一部を対象とします。

② 研究の実施期間

2020年 本研究の実施許可日～2023年3月

③ 研究の方法

大腸内視鏡で採取された検体の一部を、電子顕微鏡を用いて詳しく観察・解析します。解析は連携施設である千葉大学院医学研究院腫瘍病理学教室で行います。

3) 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公開しないこととします。

4) 試料保存および使用の方法

取得したデータ、解析結果の保管は千葉メディカルセンター、包括連携協定書締結機関である千葉大学院医学研究院で適切に保管させていただきます。保管期間は研究開始から、研究結果の発表後5年間です。保管終了後には速やかに破棄します。

5) この研究で予想される結果と研究結果の公表

研究結果は研究実施責任者ないし研究分担者が、病理学関連雑誌に投稿する、日本病理学会等で口頭発表するなどの形式をとり、公表する可能性があります。

6) 資料提供者にもたらされる利益と不利益

既存の検体を用いるため、患者さんが健康被害を受けることはありません。費用負担もありません。

7) 問い合わせ・連絡先

この研究について質問等ございましたら、下記までご連絡ください。

また、試料・情報の提供をご希望されない場合は、下記までご連絡ください。研究にご参加いただけないことによる診療上の不利益は一切ございません。申し出が解析開始前・研究結果の公表前の場合は、速やかに個人情報およびデータは削除いたします。ただ、申し出の時期により当該の対応が困難な場合がございますので、その際は、ご説明させていただきます。

問い合わせ先

誠馨会千葉メディカルセンター 病理診断科

研究担当医師 林 麻南子

連絡先（電話番号）043-261-5111（平日：9時～17時）